



康德九年三月三十日

鐵鋼增產對策東邊道製鐵緊急實施計畫說明書

東邊道開發株式會社

株式會社昭和製鋼所

4-





一、緒 言

東邊道開發會社ハ東邊道ニ賦存スル鐵鑛石、石炭ノ採掘並ニ之ヲ原料トスル製鐵事業ノ經營ヲ目的トシテ設立サレタルモノニシテ創業以來治安ノ不良、交通運輸ノ困難、資材勞力ノ不足ト闘ヒツツ急速ニ新鑛山ノ開發ヲ行フト共ニ、未踏ノ地域ヲ調査シテ逐次新資源ヲ發見シ、今ヤ鐵鑛石ノ埋藏量四四億噸、石炭ノ埋藏量一〇二億噸ヲ超ユルニ至レリ。

而シテ鑛山ニアリテハ開發ノ主力ヲ大栗子溝及七道溝ニ注キ最近漸次採鑛ノ準備ヲ整ヘ既ニ日本、朝鮮、鞍山、本溪湖、撫順等ニ鑛石ヲ供給シ稀有ノ高品位ト特徴アル鑛質トヲ以テ實用サレツツアリ又石炭ハ其ノ過半カ製鐵用該炭原料ニ適スル粘結性炭ニシテ、殊ニ最近發見サレタル灣溝、松樹鎮ハ其ノ炭質埋藏量共ニ滿額ニ於テ最モ注目スヘキ新重要資源ナリ。

弊社ハ其ノ使命ニ從ヒ創業ノ當初ニ於テ直チニ製鐵事業ヲ興ス可ク敷地ヲ二道江ニ選定シ、機器ノ發註ヲ行ヒ基礎工事ニ着手セリ。



然ルニ支那事變ノ推移ニ伴ヒ情勢ノ變化ニ適應スヘク事業計畫ニ若干ノ修正ヲ加ヘ、專ラ刀ヲ鑛山開發ニ用ヒ、製鐵所建設ハ一時之ヲ延期シテ今日ニ至レリ。蓋シ極度ノ原料不足ニ惱メル日滿製鐵業界ノ實情ニ鑑ミ原鑛石及石炭ヲ擧ケテ既成ノ重工業地ニ供給スルコトハ應急ノ處置トシテ止ムヲ得サル處ト認メタルニ因ルモノナルモ素ヨリ恒久正常ノ方策ニハ非サリシナリ。

然ルニ大東亞戰爭ノ勃發ハ再轉シテ更ニ鐵鋼ノ一大緊急増產ヲ必要トスルニ拘ハラズ、久シク姑息彌縫ノ手段ヲ重ネ來レル製鐵業界ハ既ニ著シク行詰リノ状態ニアリ、漸ク國家非常ノ要求ニ應ヘ得サルノ兆ヲ示スニ至レリ。將ニ一切ノ行懸リヲ清算シ根本合理ノ施策ヲ樹ツ可キノ秋ナリト謂フヘク弊社ハ茲ニ見ル所アリ東邊道ノ特殊的環境ト製鐵業全般ノ推移トヨリ考ヘ現地製鐵事業著手ノ時期愈々到來セルコトヲ確認スルモノナリ。蓋シ其理由トスル所ハ原料輸送ト原料活用トノ二大經濟問題ノ解決ト共ニ國防上ノ立場ヨリ考慮セル滿洲重工業基地分散ノ根本的解決ヲ得ントスルニアリ。以下少シ



ク之ニ就テ詳述セントス。
ニ輸送問題

東邊道ハ現地ニ一ノ重工業無ク又見ル可キ都市無キヲ以テ、生産スル資源ハ擧ケテ之ヲ他ニ輸送供給セサル可カラス。然ルニ現状ニアリテハ輸送路ハ南下シテ朝鮮ニ至ル通線ト、北上シテ奉吉線ニ連接スル梅通線ノ二線ノミ、其ノ鑛産物輸送ノ能力ハ前者ニアリテハ重要ノ關係ト朝鮮滿浦線ノ輸送力トノ關係上僅カニ三〇万噸ヲ超エス。一方南滿重工業地帯ニ通スル大動脈タル可キ梅通線モ亦線路勾配其ノ他ノ條件ニ制約セラレテ最大輸送能力ニ一〇万噸ト推定サル。從ツテ生産セル鐵鑛石並ニ石炭ノ原料ノママ輸送スルモ亦小、康德十一年度ニ於テ既ニ其ノ最大輸送力ヲ突破スルニ至リ、ソレ以上ノ生産擴大ノ爲ニハ通化ヨリ桓仁ヲ經テ官ノ原、遼陽ニ至ル通線ノ開通ヲ必要トスルノ情勢ニアリ。本新線ハ滿洲ニ於ケル三大鑛資源地帯ヲ構貫スル經濟線ニシテ將來極メテ重要ナルコトハ勿論ナレトモ、完成期限康德十年度末ヲ豫想スルコトハ工業期間ノ關係



上殆ント不可能ナルノミナラス、康德九、十、十一年度ハ諸般ノ緊急事業輻輳ノ期間ニシテ資材、勞力ノ供出上ヨリ見ルモ至難ト認メラル。之ニ對シ若シ二道江ニ於テ製鐵事業ヲ興シ、銑鐵トシテ送出スルコトヲ計畫スルトキハ、康德十四年度ニ於テ始メテ梅通線ノ輸送力不足ヲ告クルニ過キササルヲ以テ、著シク輸送上ノ困難ヲ緩和シ得ルモノト豫想サル。即チ二道江ニ於テ製鐵セハ通遼線建設資材二萬五千噸ハ其ノ需要期限ヲ三ヶ年後ニ延シ得ルコトトナリ、本資材ハ年産五十萬噸ノ製鐵所建設所要資材ノ四三%ニ匹敵ス。而シテ之ニ附帶スル輸送資材二萬噸ヲ考慮スルトキハ八〇%ニ達シ、通遼線建設資材ヲ以テ殆ント製鐵所ヲ完成シ得ルノミナラス、二道江既往投資一、〇〇〇萬圓ヲ浪費ヨリ救フコトトナル。一方鐵鑛石及石炭ヲ原料ノママ鞍山ニ輸送スル場合ト製品タル銑鐵ヲ鞍山ニ供給スル場合トニ於ケル輸送費差額ハ年々六一五、五萬圓ニ達シ國家經濟上莫大ナル利益ヲ生スルモノナリ。





三、資源ノ活用

次ニ資源の見地ヨリ考フルニ東邊道ニ産スル鐵鑽石ハ其ノ種類甚タ多種多様ナルヲ以テ其ノ冶金學上ノ特徴ニ應シテ配合スルトキハ資源ノ綜合的利用上極メテ有利ナリ。

然ルニ現状ノ如ク既存ノ製鐵所ニ供給シ得ル優良鑽石ノミヲ採掘スルトキハ開發鑽石ハ總資源ノ僅少部分ニ止マリ、而モ殘置サルル資源ハ漸次ニ配合上ノ融通性ヲ缺クニ至リ遂ニ空シク廢棄サルル憂アリ。

更ニ之ヲ詳説セハ東邊道ニハ老嶺系鐵鑛ノ如キ莫大ナル貧鐵ノ埋藏アリ、又特異ノ鑛石タルチヤモサイトノ如キモノアリ、之等ハ何レモ其ノ成分的關係ニ於テ所謂酸性鑛ニシテ熔鑛爐操業上ヨリ見レハ鞍山系貧鑛ニ近似ス。從ツテ之等ノ資源ハ鞍山、本溪湖ニ於テハ利用上ノ特徴ヲ發揮スルコト能ハス、又輸送距離ノ關係上其ノ開發ハ國家的ニモ不合理タルモ免レス。然ルニ之ヲ東邊道現地ニ於テ利用スルトキハ輸送費ヲ要スルコト殆ト皆無ナルヲ以テ原料費低廉ナル





ノミナラス、之等酸性鑛ハ大栗子溝系ノ鹽基性鑛ト配合スルコトニ
ヨリ媒熔劑タル石灰石ヲ要スルコト尠ク、從ツテ骸炭ノ消費ヲ低減
シ、操業甚タ有利ナリ。殊ニ東邊道鑛中七道溝鑛石及大栗子溝チ
ヤモサイト等中ニハ數%ノ瀆備ヲ含有スルヲ以テ製銑ニ際シ瀆備鑛
石ヲ添加スルノ要ナク瀆備鑛石不足ノ折柄極メテ重視スヘキ利益ア
リ、而シテ大栗子溝鹽基性鑛トノ配合ニヨリ活用セラルル酸性鑛石
量ヲ推算スルニ年産五〇萬噸ノ場合ニ於テ鑛石四八萬噸、銑鑛換算
二五萬噸ニシテ市場性ヲ有セサルモノノ利用率ハ實ニ五〇%ニ達ス。
即チ現地製鐵ノ場合酸性鑛石配合活用ニヨリ生スル國家的利益ハ、
昭和ニ於テ東邊道鑛石ヲ利用スル場合ニ比シ一〇〇%ノ増加トナル。
而モ斯ノ種酸性鑛石ハ其ノ埋藏量極メテ豊富ナルヲ以テ、現地製鐵
實現ノ曉ニ於テハ其ノ利用量ハ逐年増加ス可ク、之ニ依ル鑛増産ハ
實ニ東邊道鑛鑛資源ノ特殊性ニ因由スルモノニシテ、國家的見地ニ
於ケル永遠ノ利益タルニ反シ、若シ現地製鐵ヲ行ハサル場合ハ空シ
ク廢棄休眠セサルヲ得サルモノナリ。





四 原料調達ト設備利用率

在滿既設製鐵所今後ノ増産方針ヲ検討スルニ、原鑛石ニ關シテハ、富鑛ノ生産ニ於テ既ニ略最大限度ニ到達セル今日、増産分ニ對スル主要鑛石ハ貧鑛處理ニヨル燒結鑛若クハ團鑛ニ依存セサル可カラス。然ルニ之等所謂人造富鑛ノ調達ハ其ノ施設ニ於テ天然富鑛ノ獲得ニ比シ遙ニ多額ノ資材ト資金トヲ要スルノミナラス、其ノ完成期限短縮ニハ熔鑛爐設備ニ於ケル以上ノ困難アリ。而モ之等人造富鑛及鞍山系ノ原料鑛石ハ何レモ強酸性鑛石ナル爲換業上ノ缺陷多ク、之ニ因ル出銑量ノ低下從ツテ施設利用率ノ低調ハ愈深刻ナラサルヲ得サルモノト豫^想撥セラル。

一方既設製鐵所所要ノ骸炭原料炭ニ關シテハ、從來本溪湖ハ自給ノ方針ヲ採リ來リシモ最近漸ク不足ヲ告ケ、又昭和ハ完全ニ他ニ依存スル状態ニシテ、遂ニ大量ノ北支炭導入ヲ必要トスルニ至レリ。石炭ニ對スル此ノ傾向ハ今後益顯著トナル可ク、原料鑛石問題ト共ニ極メテ重大ナル根本問題ニシテ、既存製鐵所ニ於ケル今後ノ増産

株式會社昭和製鋼所





ハ原料調達ノ國家計畫上大イニ反省ヲ要スルトコロナリ。

之ニ反シ東邊道ハ鐵石、石炭ノ供給ニ於テ今後既存ノ製鐵所ニ對スル合理的協力ヲ強化シ得ルノミナラス、現地製鐵ヲ行フ場合ニアリテハ既述ノ如ク原料輸送ニ要スル施設經費ヲ節減シ、原料ノ綜合的配合ニ依リ熔鑪爐操業上ニ好適ナル條件ヲ保持シ、該炭消費量ヲ低減シ、出銑率ノ増加ヲ期待シ得ルコトハ既ニ實際使用ノ成績ニ照シテ明ニシテ、緊急増産ノ要望ニ對シ、最少ノ資材、資金ヲ以テ最高ノ成果ヲ發揮シ得ルモノナリ。

五、重工業基地ノ分散

最近航空機ノ發達ニ伴ヒ國土中樞地點ニ對スル敵機空襲ノ危險著シク増大セリ、周知ノ如ク滿洲ニ於ケル製鐵事業ハ悉ク鞍山、本溪湖、撫順ノ地ニ集中セラレ奉天ヲ含ム國內最大重工業地帯ハ半徑僅カニ六〇浬ノ圓周内ニ包括サル、斯ノ如キハ一朝非常ノ際ニ當リ唯一最大ノ生産基地ヲ擧ケテ敵襲下ニ露呈スル危險ヲ胚胎スルノミナラス、遠隔ノ地點ヨリスル原料輸送ノ艱難混雜ハ愈甚タシカルヘク

株式會社昭和製鋼所





國防上最モ警戒ヲ要スル所ナリ。而シテ斯カル危險防止ニ對スル重要ナル國家施策ノ一ハ國內主要施設ノ分散配置ニアリト認メラル。思フニ製鐵事業ハ近代國家戰力ノ根幹ニシテ戰時ニ於ケル之カ防衛ハ國家最大ノ關心事ニ非スンハアル可カラス。滿洲鐵鋼増産ノ要求ハ製鐵設備ノ新設擴大ヲ必至トス。此ノ際ニ當リ其ノ立地選定ニ關シ特ニ將來ノ國土防衛上ノ配慮ヲ以テ最重要條件トナス可キコトハ論ヲ俟タサル所ナル可シ。東邊道ハ南滿洲重工業地帶ヨリ遙カニ三〇〇軒ヲ隔ツル山嶽重疊ノ間ニアリ。ソノ地形ノ錯雜ト氣候的關係トハ最モ空襲ニ對シテ安全ナリ、況ンヤ一旦緩急ノ際ニ於ケル特殊輸送ノ輻輳ニ思フ致ストキ遠隔地ヨリ原料ノ供給ヲ受タル重要産業ノ原料確保困難ナルニ比シ、當社ハ貴重ナル輸送手段ヲ殆ント要セスシテ原料自給ノ利點アルニ於テオヤ。

以上ノ點ヲ通觀スレハ東邊道方今後ニ於ケル重工業基地トシテ最モ適當ナルハ明白ナリ。

六 結 言





顧レハ弊社創業以來過去三年有半ニ瓦ル血涙辛酸ノ苦闘ハ實ニ暴
戾ナル匪賊ノ掃討ト無任邊疆ノ他ニ對スル文化光被ニ吸盡サレタル
ノ感無キ能ハサルモ、而モ此ノ間克ク遂ニ最モ國家目的ニ合致スル
重工業發生ノ基礎的工作ヲ完了シ得タリシモノナリ。今ヤ通輯、鴨
大ノ二鐵道完成シ、出力三万キロノ發送電設備ノ完成一兩月ノ間ニ
迫リ、鑛炭山開發ノ準備亦漸ク成リ、新工業發展ノ資質條件全ク整
ヘリ。

由來重工業ノ發生ハソノ出發點ニ於テ最大ノ困難アリ、コノ困難
ニシテ一度克服セラレンカ、新進豐富ノ好條件ハ忽チニシテ飛躍發
展ヲ可能ナラシムルコト比々前例ニ明カナル所ナリ。東邊道ニ購存
スル多種豐富ナル製鐵資源ト、最近ノ開發進捗ノ狀況ト、而シテ將
來ニ於ケル國土計畫的要求トハ、東邊道カ滿洲ニ於ケル第三製鐵基
地タルコトヲ確約スルモノニシテ、而モ鐵鋼緊急増產ヲ要スル今日
原料輸送問題ノ調節殊ニ通遼線建設期限ノ緩和、輸送資材並ニ輸送
諸費ノ永久的節約、増產施設ニ要スル最少ノ資材、資金、現地ニ於





ケル低品位礦石活用ニヨル減産時、事實當面ノ絶對的益ヲ考慮
スルトキ、東邊製造所建設ノ即時着手ハ國家最大緊急時ニ於ケル
必至最善ノ方策タルコトヲ確信スルモノナリ。

株式會社昭和製鋼所

4-

